

# Keiba Global Front Line

## 競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人をご紹介します



### 合田 直弘

先月のこのコラムで紹介した、G1英二千ギニー(5月4日、ニューマーケット競馬場)の大本命馬シティオウトロイ(牡3、父ジャスティファイ)は、勝ち馬から16/3馬身差の9着という、まさかの大敗に終わった。

この原稿を記しているのは二千ギニーの4日後だが、故障発生などの報道はない。同馬を管理するA・オプライン師は、「馬がフレッシュすぎる状態だったようだ。シーズンオフの間、馬を大事にし過ぎたかもしれない」とコメントしているが、はっきりした敗因は特定されていない。6月1日にエプソムダウンズで行われるG1英ダービーでも、前売り1番人気に推されていた同馬だが、その座からも陥落。代わって、多くのブックメーカーが1番人気に浮上させたアラビアンクラウン(牡3、父ドウバウゴ)を、今月のこのコラムでは紹介したい。

C・アップルビー師が管理するアラビアンクラウンは、仏国産馬だ。連覇したG2ロワイヤリユー賞(芝2400m)を含めて3つの重賞を制したに加え、G1ヴェルメイユ賞(芝2400m)3着などの成績を残したザジュリエットローズの半弟にあたる同馬は、22年のアルカナ8月1歳市場に上場されたところ、ゴドルフィンに60万ユーロ(当時のレートで約8279万円)

で購入されている。

デビューしたのは昨年の7月で、2戦目となったサンダウンのメイドン(芝7F)を2馬身差で制して、初勝利をあげた。

続いて出走したのがソールズベリーで行われたLRストーンヘンジS(芝8F)で、調教で目立つ動きを見せるタイプではないアラビアンクラウンは、ここでは2番人気に甘んじたが、実戦ではスツと2番手につける素軽さを見せ、残り2Fで抜け出すと、最後は後続に2<sup>1</sup>/<sub>4</sub>馬身差をつけて特別初制覇。この頃から、今年の3歳クラシックの前売り上位に顔を出すようになった。

ストーンヘンジSの直後は、次走は9月30日のニューマーケット開催に組まれたG2ロイヤルロッジS(芝8F)になると見られていたが、実際にはここを使わず、同馬の4戦目となったのは、10月14日にニューマーケットで行われたG3ゼットランドS(芝10F)だった。この段階で陣営は、アラビアンクラウンを「2000ギニーよりもダービー向き」と判断したわけである。

ゼットランドSにおけるアラビアンクラウンは、ゲートが開くと鞍上のW・ピユイックに促されてハナへ。途中2番手に下げる場面があったが、残り3Fで再びハナを奪うと、そこからは独走態勢となり、最後はピユイックが手綱を控えながら、後続に5<sup>1</sup>/<sub>2</sub>

馬身差をつけて重賞初制覇。ダービーの前売りで2~3番人気に浮上することになった。

アラビアンクラウンの3歳初戦となったのが、4月26日にサンダウンで行われたG3クラシックトライアルS(芝9F2009m)で、好スタートを切った同馬はこどもハナへ。残り2Fからピユイックが追い出すと、後続に3<sup>1</sup>/<sub>4</sub>馬身差をつけて逃げ切り勝ち。ダービー候補としての地位を磐石なものにした。

今年のゴドルフィンの3歳世代には、昨年9月にドンカスターで行われたG1フューリーチュリテイトロフイー(芝8F)を制したエンシントウイズダム(牡3、父ドウバウイ)というダービー候補もいる。実は、このエンシントウイズダムも仏国産馬で、アラビアンクラウンと同じ22年のアルカナ8月1歳市場に上場されたところを、ゴドルフィンに200万ユーロ(約2億7598万円)で購入されていた。日本の競馬ファンの皆様ならご存知のように、5月26日に行なわれるG1日本ダービーに出走予定のシンエンペラー(牡3、父シユニー)も、22年のアルカナ8月1歳市場にて210万ユーロ(約2億8978万円)で購入されて日本へやってきた馬だ。

22年のアルカナ8月1歳市場には、お宝が多数潜んでいたようである。